

# 草レーサー向けタイヤの

# 決定版

7月18日にツインリンクもてぎで行われたアイドルズ夏の12時間耐久に、クムホスポーツラジアルタイヤのエクスタV700を装着した964カブリオレで参戦。今回は、実戦でのV700の実力を試す。

文/日比野 学(本誌) 写真/根賀亮仁(本誌)  
協力/ロジテック tel.045・481・5480



# 92RWB の964 カレラ2は、フロントに285/30、リア305/30の18インチという極太タイヤを装着。エクスタV700は、サイズ展開が広くほとんどのボルシェに履けるのも魅力のひとつだ



# 2の我がチーム、ロジテック&カトーオートの964カブリオレ。エンジンには、手が入っていないが、快適装備や幌のパーツをすべて排除した軽量マシン



930ベースの#41アウトバーンボルシェもエクスタV700を履く。こちらは、燃費重視のセッティングでタイヤも17インチを選択。最後までクレバーな走りで見事



アウトホームなテント。12時間耐久はお祭り気分だ。チーム員、笑顔の絶えない1日を過ごした



パドックでは、クムホタイヤのサーキットサービスが行われていた



102台の参加車両。ツインリンクもてぎのコース上はいつもこんな状態。さまざまな車種とベースで、普段のサーキット走行とは違う注意が必要。ちなみに、リアフェンダーにはお守りの「カメロコ」

## 実戦 タイヤ耐久テスト KUMHO TIRES ECSTA V700 V70A

### 元気印964にはベストタイヤ

梅雨が明け、本格的な夏到来とともにここ数年の恒例行事としてアイドルズ12時間耐久レース参戦がある。今年も、クムホスポーツタイヤ総輸入販売元であるロジテック代表の樋口氏からお誘いいただき参戦となった。参戦車両は、964カブリオレだ。この車両は、オーナー

の樋口氏が自らステアリングを握り今までも多くの草レースに参戦し良い成績を残しているもの。サーキットを走ることにだけ目的に、徹底的に軽量化。幌もなければ、サイドガラスもない。そんな車両に、クムホエクスタV700を装着した。

今までもエクスタV700は、996GT3に履き走らせた。その時の印象は、自走でサーキットへ行き、イベントに参加して帰ってくる草レーサーには嬉しいタイヤだということ。ライフもほかのラジアル並みに使え、突然の雨をものしぐ性能は確保されている。ボクのホームコースで走らせた際、ベストラップをBS製の55S、ようはSタイヤとほぼ同じタイムを計測した。

12時間耐久には、全部で102台が参戦。その内7台はボルシェ。しかも、7台中3台がクムホエクスタV700を履いている。僕らのチーム以外に、930カレラ3・2で出場のアウトバーンモーターチームと964カレラ2で参戦のラウヴァルトチームだ。去年まで両チームともSタイヤを装着していたのだが、スプリントレースとは違い耐久だから、速い周回よりも12時間保つタイヤとして選択したのだろう。

さて、ツインリンクもてぎを走るとフロントロール性の良さに気分を良くした。グリップレベルは、Sタイヤに敵わないが素直に思い通りコーナーを走れる。そして、996GT3ではリアタイヤの刚性不足を感じることがあったが、964ではない。これは、車重の違いとパワーがGT3ほどないのが理由かもしれない。ちょっと元気印な964には、ベストタイヤだと思ふ。レースの方は、我がロジテック&カトーオートチームの全ドライバー9名で最後まで走りきり総合で10位。特筆したいのは、チームの雰囲気。チームメンバー全員、耐久草レースを楽しむ達人だったようで、テントの中では笑顔が絶えない最高のチームだった。

クムホ装着ボルシェは、いずれのチームもすべて完走した。耐久性も実証だ。